

共感と違いを感じ、つながって、行動して

埼玉県 合同会社代表社員

新井純子（あらい じゅんこ） 59歳

ささやかで、小さな日々の私ごとの暮らしの出来事や考えていることが、実は世界中の大きな流れやこととつながっていることをNWECに行くたびに感じます。

世界とはいかないまでも、日本中から集まってくる方々と意見交換をすると「共感」と「違い」を感じます。

1994年から1997年までパプアニューギニアという国に住んでいました。その後、埼玉県に住むことになるのですが、当時、埼玉県の副知事をされていた坂東眞理子さんのお話を伺う機会がありました。

「男女共同参画社会」に共感と興味を持ち、それ以来、「男女共同参画」に関わってきたのだなあ、と思います。

昨年夏から夏のフォーラムには参加しています。私よりも若い世代のワーキングマザーたちと出会い、あるいは仕事はしていたけれど、地域へのつながりが持てない、地域デビューができないおじさんたちと出会って、私個人の感じていた課題と根本でつながっている共通の課題解決に向けてのワークショップを実施しました。

一緒に企画し参加してくれた、ワーキングマザーたちも、おじさんたちも「来年もまた行きたい」といってくれます。

「私ひとりの悩み」「私個人の課題」と思っていたことが、口に出して、行動していけば、こうやってつながって、大きな広がりを見せるのだということの実証です（おおげさですが）。

人に伝えていくことは、それも今までの価値観でない新たな価値観を伝えていくのは、難しいことではありますが、NWECという場所があって、そこに集う人たちが支えになってくれているのだと思います。